

自滅（嫉妬） 神話

彼等の自由にならぬものは何ひとつとして無く
求めれば必ずそれをとらえ
棄て去れば必ずそれを失い

空しきは力よ、^{よるべ}寄方ない・・・

勝手にしろと誰もが言っていたはず

貧しき者は^{さいわ}幸福いなり

平然と言つてのける
「心の豊かさを」などと
そして祭り上げられた者達は
哀れにも神として温もりの中より放逐され

祭壇の上で己の知と愛を呪い
全人類が豊饒の下に苦しみ呻くを願い
群集は恐怖に蒼ざめて口々に叫ぶ
「まやかしの魂だ、焼き殺せ」と
哀れ、神はいけにえと転落して火だるまに
そして群集はこぞって神位を求め
祭り上げられてはまた火だるまに
止まることなき自滅の連続に

天を^{あかがね}銅色に不気味に染める

(1985.1.3)